

校長室より

第51号

「天空高き」



平成25年9月30日

## 身体を動かすことを楽しんだ～第66回運動会～

前日の雨も早朝には止みました。しかし6時前のグラウンドは至る所に水たまりができていました。小雨でも決行する予定でしたが、できるだけ良いコンディションでやらせたいのはどの先生も一緒です。体育主任の西村先生をはじめ体育科の先生や、手の空いている教職員は早速道具を揃えてグラウンドへ出て、水たまりの水の除去開始です。様子を見に来られていた保護者の方も、ちり取りとほうきを持参して手伝って下さいました。そのうち、陸上部や野球部の生徒たちも手伝ってくれたので、7時前までにはグラウンドから水たまりを除去することができました。教職員や生徒たちの熱い思いが天まで届いたのか、天気も次第に回復し、雲間から日の光も差すようになりました。

豊田生徒会長の素晴らしい挨拶で、50分遅れの第66回運動会がスタートしましたが、終わってみれば予定より早く終了することができました。運動会にはつきものの、後片付けも皆さんの協力のお陰で随分早く終わることができました。中学の山本生徒会長の言葉通り、生徒の皆さんは、一人ひとり全力で取り組み、運動会を楽しんでくれました。またご来賓や保護者の方々も、皆さんが全力で取り組んでいる姿を微笑ましく、楽しそうに観覧されていました。閉会式で山本生徒会長が「良い準備をしていた」と言っていました。その通りでした。準備、後片付けを含め、生徒たちと教職員が一体となって取り組んだ、さわやかで、楽しい運動会でした。お疲れ様でした。

運動会保護者アンケートで、駐車場係の生徒たちの元気な挨拶や、きびきびした態度にたくさんの保護者からお褒めの言葉をいただきました。



言葉づかいで注意すべきことの第一は、無神経でがさつな言葉を使わないことである。  
河盛 好藏（フランス文学者・評論家）

## Switchは入りましたか？～楽学祭を終えて～

TRIPLANE のライブでスタートした今回の楽学祭、生徒の皆さんの若さ溢れる熱気とはちきれんばかりのエネルギーには圧倒されました。

2日目は全体行事と自由観覧でしたが、多数の保護者のご来場をいただき、大変盛り上がりました。特にお化け屋敷は人気で長蛇の列ができていました。

生徒の皆さんは一番何が心に残っていますか。

楽学賞を受賞したS3-2の「ピタゴラススイッチ」は、毎年、理系クラスの3年生から後輩に引き継がれており、それが大きく評価され、今回の受賞に至ったのだと思います。

楽賞は長唄三味線部が受賞しましたが、やはり、これまでの地道な活動が評価されたのだと思います。

学賞はS2-2の「Easter Egg～世界の文化を体験しよう～」は、とてもよく考え、趣向も凝らされており感心しました。

豊田生徒会長は「自分自身を変える」switchと「やる気」のswitchをonにしようと、訴えていましたが、今回の楽学祭を成功に導いた生徒会自身がまず範を示して、「学校を変える」switchと「生徒たちのやる気」をonにしてくれました。



聞かざるは之を聞くに若かず  
之を聞くは之を見るに若かず  
之を見るは之を知るに若かず  
之を知るは之を行うに若かず  
学は之を行うに至りて止む  
『荀子』

何事に限らず、聞かないことは聞いたことに及ばない。  
聞いたことは見たことには及ばない。  
見たことは理解した事には及ばない。  
理解したことは実践した事に及ばない。  
結局、学問は実践することを究極の目標として努力すべきものである。  
学問はこれを実行することによって最上に達したというべきだ。

## 「秋の交通安全運動 9/21～9/30」～優良校を授与～

2年前に岩国市の優良校を受賞しましたが、今回は山口県からの表彰です。交通委員の皆さんが毎日先生たちと一緒に、学校前や南岩国駅前の交差点で安全に歩行できるように見守ってくれているからです。毎日の地道な活動が今回の受賞につながりました。生徒の皆さんと共に今回の受賞を喜びたいと思います。

ところで、登下校中での自転車による事故は、残念なことに毎年発生しています。

自転車走行での注意点は ①安全速度を守り ②並進の禁止 ③早めの点灯 ④交差点での一時停止と安全確認 です。

交通ルールを遵守（じゅんしゅ）して事故を起こさないようにすることが、大切ですが、それでも生徒の皆さんが加害者になる交通事故を起こしてしまうことがあります。そうした方が一々ときには、当然の責任として、被害者の方の受けた損害を賠償しなければなりません。皆さんが、こうした損害賠償を確実に行うことができるようにするためにTSマーク制度や各保険会社の対人傷害等保険があります。「私だけは事故を起こさない」と過信しないようにしましょう。



## 「学校でのお気に入りの場所」

「この場所はどこか、わかりますか？」

昭和29年に、本校が周南市高水から岩国のこの尾津地区に転出して、今年で59年になります。この第一校舎は昭和38年に竣工しましたので、今年でちょうど築50年になります。

この階段を歩いていると、歴史の深さと重みを感じます。私は特に、階段を上るときの左側の欄干が気に入っています。高水の伝統の重みを感じさせてくれる、この階段は私にとってはお気に入りの場所の一つです。

生徒の皆さんも早朝あるいは放課後、シーンと静まりかえった校舎の中を、一人で歩いてみてはどうですか。きっと何かを感じると思います。



## 平等と公平について

辞書の広辞苑で引けば、「平等とは、かたよりや差別がなく等しいこと」「公平とは、かたよらず、えこひいきのないこと」と書いてあります。

この違いが分かる人はいますか。

ハワイ大学上席副学長ジェイス・S・ツノダ氏は「公平とはスタート時に平等で、能力と努力に依りて差があること」と、述べられています。

私なりに、以下のような例えで説明したいと思います。

運動会での100m競争を思い浮かべてください。選手はヨーイ、ドンで一斉にゴールを目指しますが、ゴールでは選手の差がつきます。スタート時にはどの選手も同じスタートラインに着いています。それが平等に扱われているということです。しかし、一人ひとりの選手の能力と努力は違いますので、ゴールするときには差を生じてしまい、一位からビリまでの順位がつきます。ゴールで選手の順位がつくということが、公平に扱われたということです。

以前、幼稚園や小学校では、徒競走の時にみんなで手をつないでゴールして順位を付けないようにする、ということを知ったことがあります。それは、スタート時には平等であるが、ゴールにおいては公平に扱われなかったということになります。

試験でも、同じ事が言えます。例えば「日本史」のマーク式試験問題を50分で解答するとします。試験監督者の合図で一斉にスタートします。試験を受ける生徒は平等に扱われたということになります。50分後に試験が終了し、採点結果がでます。生徒の能力と努力によって、点差が開きますが、それが公平に扱われたということ

です。前述の、徒競走の時にみんなで手をつないでゴールして、順位を付けないようにするというのであれば、テストの結果がみんな同じということになってしまい、ちょっとこれはおかしいことだと思います。

「平等と公平」は「入り口と出口」、「前提と結果」と考えればよく分かります。何かを始めるとき、その機会はすべての人に平等に与えられなければなりません。しかし、その機会を活用しても、一生懸命努力して、ある人は大きな成功を収め、ある人は同じように一生懸命努力したけれども、失敗するかも知れません。終わってみれば結果には差がでてしまうのです。失敗した人は不公平だと思うかもしれませんが、これが公平ということです。大切なことは、人は失敗から何かを学ぶことができれば、次の機会をチャンスに変えることができます。

3年生の皆さんは就職試験や大学受験で、社会や大学の入り口のところで大変な思いをしているかも知れません。しかし、結果を恐れることなく、その時にどういう態度を示すかで自分自身の人生を大きく変えることができます。過去は変えることはできませんが、未来はあなた自身の手で変えることができるのです。

